

アイヌ口承文芸「散文説話」

—山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語—

大谷洋一

- 目次 1 まえがき
 (1) あらすじ
 (2) 解説
 2 アイヌ語テキストと対訳
 3 日本語テキスト

Key Words アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、ウウェベケレ (*Uwepeker*)、カムイ (*Kamuy*)、アイヌ (Ainu)

1 まえがき

本稿で紹介するアイヌ口承文芸のテキストは、沙流郡平取町ペナコリ出身の上田トシ氏 (1912~2005) が伝承していたアイヌの散文説話 (ウウェベケレ *uwepeker*) である (資料番号: CC001157) ⁽¹⁾。

この物語のアイヌ語と日本語の語りの採録は、2001 (平成13) 年5月26日、平取町字旭にある上田氏の自宅で筆者が行った。まずアイヌ語による口演 (15分5秒間) を行っていただき、その直後に日本語による口演 (9分26秒間) をしていただいた。

伝承経路について上田氏自身は、姉の木村キミ氏 (1900~1988) から伝え聞いた物語であると述べられている。

(1) あらすじ

私は兄と二人で暮らしている娘でした。私は料理だけしか仕事をするともなく、ただ炊事ばかりして、兄から大事に育てられていた。何も不安のない生活をしていたのであったが、ある時からどうしたことか、兄が私に嫌なことばかり言うようになった。私は注意深く自分を見ると、私のお腹が大きくなっているのがわかった。兄は「何が原因でお前は妊娠したのか? 二人だけで暮らしているのにお前が妊娠したら私が笑いのものにされるのに。」と言いながら、私にひどい言葉をあびせかけた。私自身がなぜ妊娠したのかわからないでいたが、出産が近づいてきたので、兄がいない隙に私は生活用具を袋に入れて家出した。川を遡って水源地まで行ってから、別

の川筋を降りてみると、とてもきれいな沢があったので、私はその川原に草小屋を作った。昼間はそこで小魚を獲って暮らした。やがて、出産すると、きれいな男の子の双子を産んだ。兄から悪口を言われていたのであったが、きれいな赤ちゃんを授かったことを喜んで暮らしていた。すると夕方になるとどこからか青年がやって来て料理して私たちを養い、赤ん坊を可愛がってくれるのであった。私が感謝していると彼がこのように言った。

「人間の娘よ、私は人間ではない。上方の天にいる山の神の息子である。両親と姉と暮らしていたが、お前が神であったのなら妻にしたいと思っていたのであるが、同じ頃に沖の神も私と同じような想いを抱いてしまった。そのためにお前は山の神と沖の神の子供を身ごもったのだ。お前が家出して来た様子を見て、私はお前を養っていたのであるが、家に帰ると父たちから、その行動を戒められたので明日からは来ないから。お前の本来の許婚であるオタサム村の長者の息子とお前の兄に今回の件について夢見をさせたから、明日になればその二人がお前を探しに来るだろう。山の神の子はお前の兄が育てるだろう。沖の神の子はお前がオタサム村の青年と一緒に育て上げれば何も不自由のない生活ができるだろう。」私はそれを聞いて感謝していると、山の神の青年は外に出てから熊の姿になって山を登って行った。外で子どもたちが遊んでいるのを笑いながら見ていると、兄とオタサム村の青年と一緒にやって来た。すると山の神の子は私の兄に抱きつき、沖の神の子はオタサム村の青年に抱きついた。兄は「妹をいじめていたら、家出されて後悔していると、神からの夢見でお前の無事を知らされて迎

大谷洋一: 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) この音声資料のテキストは、2018年度から当博物館で公開するための準備の一環として文字化したものである。

えに来た。」ということ話を話した。私たちは家に帰り、兄は山の神の子を育てることになり、私はオタサム青年に連れられてオタサム村で暮らした。私の子供たちも成長して互いに行き来するようになり、何不自由無く暮らしていた。私の兄は酒を造って山の神に祈って見守られながら赤ちゃんを授けられ、私も沖の神に祈りながら暮らし、子供たちの成長を見ながら老いたのですと、一人の女が話した。

(2) 解説

ウウェベケレでは、カムイ（神）がアイヌ（人間）の美しい娘に惚れて「自分の妻にしたい」と好意を寄せただけで、その娘が神の子を身ごもるといふ事例がよく語られる。神の子を妊娠する女性は独身であることが多く、家族はそれが神の仕業であることを知らずに娘を叱りつけるが、後に神の子であることを知り、産まれた子を大事に育てて幸せな晩年を過ごしたという内容の類話は他にもある。

本編で特徴的なのは、山の神（クマ）の息子と沖の神（シャチ）の息子が一人の人間の娘に対して同時に同じ様な好意を抱いただけで二つの神の子を双子として身ごもり出産した点である。そして、山の神は娘と赤ん坊をしばらく養った後に妊娠した原因を娘に明かしてから、その娘の兄とオタサム村に住む青年（娘の許婚）に対しては夢見でその原因を伝えている。

本編にはいくつかの謎がある。第一に、山の神と沖の神が双子の父親となっているが、山の神だけが人間たちとコミュニケーションを図り、沖の神はどこにも登場しないのはなぜなのか。第二に、山の神の赤ん坊は兄に育てられることになり、沖の神の赤ん坊はオタサム村の青年と主人公の娘が育てることになる。それぞれの神の子の養育先が決まっているが、その説明が語られていない。

第一点目については、娘が山の神の領域で暮らして出産したために、沖の神よりは山の神の責任で自ら人間との接触を図っていたという解釈もできるがよくわからない。

第二点目については、将来にわたって山で暮らす兄には山の神の赤ん坊が与えられ、海岸地域（オタサム ota-sam＝砂浜・そば）に暮らすことになるオタサムの青年と娘にはより海に近い沖の神の赤ん坊が与えられたのかもしれない。山の神と沖の神の双子の赤ん坊が産まれた結果、その後は神の子供たちも成長して海の村と山の村の交流が活発になり、山の神も沖の神もそれぞれの村でアイヌたちからカムイとして祭られるという、ウウェベケレの典型的なハッピーエンドの結末を語っている。

謝辞

本稿の作成にあたり、査読していただいた二人の先生から多くの誤りについてご指摘を受けて修正することができました。提出した原稿の不備について、深く反省しております。

貴重なお時間を割いて査読された先生方に対して、記して心から感謝申し上げます。

〈アイヌ語テキストの凡例〉

(1) 本文の構成

二段組として、アイヌ語による語りはカタカナとローマ字の順で表記した。その下に日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

(2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタク』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音が付いたりする場合があるので、それが比較的に目立つ場合はその近い音を記した。また、言いさしや特に意味をなさない言いよどみは（ ）で括った。聞き取りや解釈の難しい単語の後に（？）を付した。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した例：「ボン セタ」→「ポイセタ」。

(3) ローマ字の表記

基本的に『アコロ イタク』と同じ方式で記した。日本語の場合は全て大文字で記した。音素交替を起こしたところは、単独で発した場合の形で記した。例：「poyseta」→「pon seta」。

よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句については、そのローマ字の語尾に「??」を付けた。

(4) あらすじと対訳の〔 〕内表記

日本語の意味として読解しにくい箇所は、註あるいは〔 〕内にことばを補った。

2 アイヌ語テキストと対訳

アユピ アン ヒネ オカアン ペ ネ ヒケ

a=yupi an hine oka=an pe ne hike

私の兄がいて、暮らしていたところ

アユピヒ エアラキンネ (エ) イエヤム ワ ネブ カ

a=yupih earkinne i=eyam wa nep ka

私の兄はとても私を気づかって何も

(アエ) エイタサ アカラ カ ソモ キ (ニ)

eytasa a=kar ka somo ki

あんまり私がせずに

ニナアン カ ソモ キ

nina=an ka somo ki

薪取りもしない。

ヘル スケアン ワ アユピヒ パロ アオイキ

heru suke=an wa a=yupih paro a=oyki

ただ炊事だけをして私の兄を食べさせる

エトコ アオイキ コロ パテク アナン ワ

etoko a=oyki kor patek an=an wa

用意をせばかりいて

ネブ アエシルキラブ カ ソモ キ ノ

nep a=esirkirap ka somo ki no

何も心配もなく

アユピヒ (イヨム) イヨモンコッテ⁽²⁾ ワ

a=yupih i=yomonkotte wa

兄が私を大事にして働かせないで

オカアンペ ネ アブ

oka=an pe ne a p

暮らしていたのですが

ヘムトマニ ワノ マクアン ネ⁽³⁾

hemtomani wano mak'an ne

ある時からなぜ

クス ネ ヤ アユピヒ エアラキンネ (エ、イコイ)

kusu ne ya a=yupih earkinne

なのか、私の兄がとても

イコイタクエアラカ⁽⁴⁾ カ キ オラ (ン)

i=koytak'earka ka ki ora

私に嫌なことを言って

エネ (イユ) イエヤム アユピ ネ アブ

ene i=eyam a=yupi ne a p

あんなに私を大事にする兄だったのに

(エ) エイタサ イエヤム カ ソモ キ ノ

eytasa i=eyam ka somo ki no

あまり私を大事にしないで

イコイタクエアラカ カ キ ワ

i=koytak'earka ka ki wa

私に嫌なことを言って

(ア) コロ アナン ラポッケ (モ…)

kor an=an rapokke

暮らしていたところ

ヤイフイマンパ⁽⁵⁾アナクス

yayhuymampa=an akusu

私は気をつけて〔自分の身体を〕見ると

アホニヒ ポロ ワ

a=honihi poro wa

私のお腹が大きくなって

ネ アアン ワ オラノ (オ)

ne aan wa orano

いたのであった。それから

アユピヒ エネ ハウエアニ

a=yupih ene hawean hi

私の兄がこのように言った。

ヒナク ワ エク (ホン) ホンコロ

hinak wa ek honkor

「何が原因で妊娠を

エキ ルウェ アン トウン アネ ヒネ

e=ki ruwe an tun a=ne hine

お前はしたのか。二人して

オカアン ワ オラ ネン カ

oka=an wa ora nen ka

暮らしていて、どうにか

アエカラ ワ エホニ ポロ ルウェ ネ ヤク

a=e=kar wa e=honi poro ruwe ne yak

私がお前にしてお腹が大きくなったと

アイ (イ) エミナウシ (?)⁽⁶⁾ クス セコロ

a=i=eminausi?? kusu sekoro

私は他人から笑われるのに。」と

アユピ ハウエアン コロ

a=yupi hawean kor

私の兄が言って

(2) 萱野茂 (1996) に「オモンコッテ 【o-mon-kotte】 大事にして仕事をさせない、過保護にする」と記載あり。

(3) 査読者ABの指摘により「マクアン ヒネ (?)」としていたのをこのように修正した。

(4) ジョン・パチラー (1981) に「Earaka, エアラカ、食傷スル。」と記載あり。上田氏の日本語訳の語りでは、この箇所を「兄貴が自分さ、あ、こゝろ喋るのでも、きつい言葉で自分さ、喋るし」と語っていることから、「同じことを何度も言われて嫌になる」という意味と推測する。なお、査読者Aの指摘によりローマ字を「i=koytak earka」から「i=koytak'earka」に修正した。

(5) 中川裕 (1996) に「ヤイフイマンパ yayhuymampa 【動1】 気をつけて見る。」と記載あり、萱野茂 (1966) には、「ヤイフイマンパ 【yayhuymampa】 後ろめたい、気がひける。」と記載あり。本編では前者の意味で用いられているようである。

(6) 単語は未見であるが、「エミナウシ eminausi (…が…にそれで笑われる)」という意味の2項動詞か？

エアラキンネ イコレウェン ワ (ア、カ) earkinne i=korewen ⁽⁷⁾ wa ものすごく私に嫌がらせをして ヤイカタ カ マク ネ ワ yaykata ka mak ne wa 自分もどうして ホンコロアン ヒ ネ ヤ カ honkor=an hi ne ya ka 私が妊娠したのか アエラミシカリ ノ アナン アイネ a=eramiskari no an=an ayne わからないでいたあげく タネ (エ) ヌワプ (エハン、) エハンケアン tane nuwapehanke=an ⁽⁸⁾ 今ではもう、出産が近づいた ノイネ ヤイヌアン ヒ クス オラ noyne yaynu=an hi kusu ora ようだと思ったので ネウン カ ヤイケシテアン クナク neun ka yaykeste=an kunak なんとかして家を出ようと アラム クス オラノ アロロキシネ (エ) a=ramu kusu orano arorkisne ⁽⁹⁾ 思ってこっそりと ウサ オカイペ (エ、アウ) usa okaype いろいろなものを アエヤイェトコイキ コロ a=eyayetokoyki kor 身じたくしながら アナナイネ ポロ サラニプ シクテノ an=an ayne poro saranip sikteno いたあげく、大きな袋いっぱい アエヤイラメコテプ オピッタ (ア) a=eyayramekote p opitta 生活用具を全部 アウウェカリレ ヒ クス オラ a=uwekarire hi kusu ora 寄せ集めたのでそれから	シネ アン タ アユピヒ カ sine an ta a=yupihi ka ある日、私の兄も イサム オカ タ ソイエネアン ヒネ オラ isam oka ta soyene=an hine ora いなくなった後で私は外に出て ポロ シケ アキ ヒネ ペツ トウラシ poro sike a=ki hine pet turasi 大きな荷物を作って、川を遡って アラパアナアナ アイネ arpa=an a an a ayne 行き続けたあげく ペテトク タ アラパアン ヒネ オラ pet etok ta arpa=an hine ora 川の源に行ってから スイ オヤク ワ エク ペツ ペツルウオロ suy oyak wa ek pet petruwor また、他から来る川筋の低い所 アオラン ルウェ ネ アクス a=oran ruwe ne akusu に私は降りると ピリカ ワ オケレ ナイ アン ヒネ pirka wa okere nay an hine とてもきれいな沢があつて ネ (エ) クス ⁽¹⁰⁾ (ウ) ピタラ カ ピリカ ne kusu pitar ka pirka どういうわけか、川原もきれいに (チャシ ウン) シリチャシナタラ sircasnatara 様子がさっぱりしていた。 ピタラ カ アン ヒ クス ネ (?) ⁽¹¹⁾ テタ pitar ka an hi kusu ne?? te ta 川原もあつたので、ここで アナン ワ ネ ヤクン チェッポコイキアン ヘネ an=an wa ne yakun ceppokoyki=an hene 暮らしていたら、小魚獲りをして キ ⁽¹²⁾ ワ ネ ヤクン ki wa ne yakun そうしていたら
--	--

(7) 久保寺逸彦 (1992) に「kor-e-wen 彼持てあつかひ悪し、虐待する」と記載あり。

(8) 査読者ABの教示により「nuwapehanke an」を「nuwap'ehanke=an」に修正した。

(9) 査読者Aの教示により筆者が「a=rorkisne」と誤記していたのを修正した。

(10) 田村すず子 (1996) p407に「ne kusu」を「何のために」と訳しているが、筆者が便宜的に「どういうわけか」と訳した。

(11) 不詳。査読者Bからこの「ネ ne」の解釈を求められたが、筆者には解釈出来なかった。

(12) 査読者ABの教示により「イキ iki」から「キ ki」に修正した。

アエヤイパロ オイキ エアシカイ セコロ
 a=eyayparo oyki easkay sekor
 自分で食べていけると
 ヤイヌアン ヒ クス オラ オロ タ (ア)
 yaynu=an hi kusu ora oro ta
 思ったので、そこに
 ムン エウカオマプ アカラ ヒネ
 mun eukaomap a=kar hine
 草小屋を作って
 オロ タ アナン ワ オラ (ア)
 oro ta an=an wa ora
 そこで暮らして
 シットカプ コロ (ウ) チェブコイキ
 sirtokap kor cepkoyki
 昼になると魚獲りをした。
 エアラキンネ ネ チェブ
 earkinne ne cep
 とても、その魚を、
 ポン チェッポ アヌ (?) (13) ネ ヤ
 pon ceppo a=nu?? ne ya
 小魚をたくさん獲る (?) とか、
 チェッポコイキアン ワ
 ceppokoyki=an wa
 私は小魚獲りをして
 オポキン アマ ネ ヤ
 opokin a=ma ne ya
 次々に焼くとか
 アエヤイ (エ、イェ) エトコイキ、アン (?) コロ
 a=eyayetokoyki, an?? kor
 私は身じたくしながら
 アナナイネ ラポッケ
 an=an ayne rapokke
 いたところ
 ヌワプアン ルウェ ネ アクス
 nuwap=an ruwe ne akusu
 私が出産すると
 ピリカ ワ オケレ オッカヨ
 pirka wa okere okkayo
 立派な男の

ポイソン パテク チェウコ⁽¹⁴⁾ アコロ
 poyson patek cewko a=kor
 赤ちゃんばかりの双子を持って、
 トupp アコロ ヒネ エアラキンネ
 tup a=kor hine earkinne
 二人を持って、とても
 アエヤイコブンテク
 a=eyaykopuntek
 私は喜んだ。
 エネ アユピヒ イコイキ ワ
 ene a=yupih i=koyki wa
 あのように兄が私を苛めて
 ヤイケシテアン (コロ) ア コロカ
 yaykeste=an a korka
 私が家出したけれども
 エネ アン ピリカ ポイソン パテク
 ene an pirka poyson patek
 このようなきれいな赤ちゃんばかり
 アコリアン セコロ ヤイヌアン ワ
 a=kor hi an sekor yaynu=an wa
 私は持ったのであると思って
 アエヤイコブンテク コロ
 a=eyaykopuntek kor
 喜びながら
 アナン ルウェ ネ アクス オラ
 an=an ruwe ne akusu ora
 私が暮らしていると
 シロヌマン コロ ヒナク ワ カ
 sironuman kor hinak wa ka
 夕方になるとどこからか
 ピリカ ワ オケレ オッカイポ (エ)
 pirka wa okere okkayo
 とても美しい青年が
 エク ヒネ スケ ヒネ イイペレ (エ)
 ek hine suke hine i=ipere
 来て料理して私に食べさせ
 オラ アコロ ソン ウタラ カ エアラキンネ
 ora a=kor son utar ka earkinne
 てから私の子供たちもとても

(13) 不詳。筆者には「アヌ a=nu」と聞こえるのでそのままに記した。萱野茂 (1996) に「ヌ【nu】たくさんある：ヌウエアの省略形。」と記載あり。「ヌウエア【nuwe an】」の項目では「たくさんある、豊富にある、たくさんの(獲物・作物)」と記載あり。査読者Aから「獲物が多い」のnuは名詞なので人称接辞が付いているのはちょっとおかしい気がします」という指摘を受けているが、上田氏は他動詞として用いた可能性もある。ただし、過去に上田氏の語った物語でこのような用例はない。査読者Bからも「仮にこのnuをnuwe anで置き換えるとしてそのままでは(nuwe koanにならなければ)1項動詞なので、a=などの人称はつかないのではないか。」と指摘を受けている。

(14) 久保寺逸彦 (1994) p41に記述された「cieuko 双生児」に準じて記していたが、査読者Bから「cewko」の可能性を指摘されて聞き直してからそのように修正した。

ニサシヌ (イ、ヌ) ポイソン ネ ヤ (ウ)

nisasnu poyson ne ya

元気な赤ちゃんを

オマプ ア オマプ ア オマプ ア コロ

omap a, omap a omap a kor

彼はとても可愛がりながら

イパロイキ コロ アン ヒケ カ オラ (ア)

i=paroyki kor an hike ka ora

私を養っていたところ

クンネイワ アン コロ オラ

kunneywa an kor ora

朝になってから

ヤイソイオマレ コロ オラ (エク)

yaysoy'omare kor ora

自分で外に出てから

エク ルウェ カ イサム コロ

ek ruwe ka isam kor

来ることもなくなって

アナン ヒケ カ オラ スイ

an=an hike ka ora suy

いたところ、それからまた

シロヌマン コロ スイ エク ワ (ア)

sironuman kor suy ek wa

夕方になるとまた彼が来て

スケ ワ イイベレ ネ ヤ

suke wa i=ipere ne ya

料理して食べさせてくれるとか

アコロ ソン ウタラ

a=kor son utar

私の赤ちゃんたちを

オマプ ア⁽¹⁵⁾ オマプ ア コロ

omap a omap a kor

可愛がり続けて

アン アイネ エアラキンネ

an ayne earkinne

いた長い間、とても

アコヤイライケ コロ アナン (ン、ア)

a=koyayrayke kor an=an

私は感謝していた。

(ネア) タネ リテナン カ

tane riten=an⁽¹⁶⁾ ka

今や自分で煮炊き出来るようにも

キ ルウェ ネ アクス

ki ruwe ne akusu

なっていると

オラ エネ ハウエアニ

ora ene hawean hi

このように彼が言った。

タン アイヌ ポン メノコ

tan aynu pon menoko

「これ、人間の娘よ

イタカン チキ エイヌ⁽¹⁷⁾ カトゥ アナク

itak=an ciki e=inu katu anak

私が述べることというのは

エネ アニ アシヌマ アナクネ

ene ani asinuma anakne

こういうことだ。私は

アイヌ アネ ルウェ カ ソモ ネ (エ)

aynu a=ne ruwe ka somo ne

人間ではない。

リクン カント ウン カムイ

rikun kanto un kamuy

上方の天にいる神、

キムンカムイ (イ) ポホ アネ ワ

kimunkamuy poho a=ne wa

山の神の子が私であって

アオナ アウヌ アン アサハ カ

a=ona a=unu an a=saha ka

私の父母も姉も

アン ヒネ オカアン ペ ネ ヒケ オラ

an hine oka=an pe ne hike ora

いて暮らしていたところ

エアラキンネ エアニ ヘネ (カム)

earkinne eani hene

本当にお前でも

カムイ メノコ タ ネ ヤクン

kamuy menoko ta ne yakun

神の女であったのなら

マツ ネ アコロ ペ セコロ

mat ne a=kor pe sekor

妻に私が持ったものだがと

ヤイヌアン (アン、エ、エ)

yaynu=an

私は思った。

(15) 査読者ABの教示により「ワ wa」と記していたのを「ア a」に修正した。

(16) 査読者Bから「お産の後もう自分で煮炊きできるようになったけ」という意味であると教示を受けて訳した。

(17) 査読者ABの教示により「エヌenu」と記していたのを「エイヌ e=inu」に修正した。

エアニ トモ ウンノ ヤイヌアン コロ
eani tomo unno yaynu=an kor

お前に向かって思いながら

アナン カ タ オラ スイ
an=an ka ta ora suy

私が出たが、ここにまた

レブンカムイ ポホ カ (ア、エイ)
repunkamuy poho ka

沖の神の子も

エアニ ヘネ エアシリ (ア)
eani hene easir

『お前でも、それこそ

カムイ ネ ヤクン マツ ネ アコロ (ア)
kamuy ne yakun mat ne a=kor

神であったら妻に持ち

アシパロスケレブ セコロ
a=siparosukere p sekor

自分の世話をしてもらおうものだが』と⁽¹⁸⁾

レブンカムイ カ ヤイヌ
repunkamuy ka yaynu

沖の神も思った。

アシヌマ カ ヤイヌアン ワ
asinuma ka yaynu=an wa

私も思って

ウウエイリパク⁽¹⁹⁾ ヤイヌアン ヒ クス (ウ)
uweirpak yaynu=an hi kusu

互いに一緒に私たちが思ったので

エホンコロ ワ チェウコ
e=honkor wa cewko

お前が妊娠して双子を

エコンルウェ ネ ワ オラ (エワ)
e=kor ruwe ne wa ora

持ったのでそれから

オラ エネ (ヤイケシテ) ヤイケシテ ワ
ora ene yaykeste wa

それからこのように家出して

エエク ワ エアン シリ
e=ek wa e=an siri

お前が来ている様子を

アヌカリ クス エクアン ワ
a=nukar hi kusu ek=an wa

見たので私が来て、

エパロ オスケ クス エカン (フム)
e=par osuke kusu ek=an

お前に食事を作るために私が来た。

エパロスケ (アン?)⁽²⁰⁾ コロ アナン
e=par osuke an?? kor an=an

私がお前を養っていた

ルウェ ネ ワ コロカ (ア)
ruwe ne wa korka

のであったけれども

アウニ ウン ホシピアン コロ
a=uni un hosipi=an kor

私の家に私が帰ると

アオナウタリ⁽²¹⁾ イコパシロタ
a=onautari i=kopasrota

私の父たちが私を叱って

ハウエ エネ アニ
hawe ene an hi

このように言った。

ヘマンタ オッカヨ ヌワプ メノコ
hemanta okkayo nuwap menoko

『何のために男がお産する女を

パロ オイキプ アン セコロ
paro oyki p an sekor

養うものがあるか』と

アオナウタリ ハウエオカ コロ
a=onautari haweoka kor

私の父たちが言いながら

エアラキンネ イコイキ ワ
earkinne i=koyki wa

とても私をいじめて、

コロカ エリテン パクノ
korka e=riten pakno

けれども、お前が自炊できるまで

エカン ワ エパラ アオスケ ポカ
ek=an wa e=par a=osuke poka

私が来てお前を養いも

キ クナク アラム コロ アナン ワ
ki kunak a=ramu kor an=an wa,

すると私は思いながらいて、

ア コロカ タネ (エ) エリテン カ
a korka tane e=riten ka

だったけれども今はお前が煮炊きも

(18) 査読者ABの教示により日本語訳を改めた。

(19) 査読者ABの教示により修正した。

(20) anは不詳。

(21) 査読者ABの教示により修正した。

キ クス (ウ) ニシャッタ ワノ アナクネ
ki kusu nisatta wano anakne

するので、明日からは

ソモ エカン クス ネ ナ セコロ
somo ek=an kusu ne na sekoro

私は来ないつもりだぞ。」と

ハウェアン (ハ、ワ) オラ
haweian ora

言って

エアニ カ オタサムン (ウ)
eani ka otasam un

「お前もオタサムの

コタン コンニシパ ポホ エウン
kotan kor nispa poho eun

村の長者の息子のところへ

エアラパ クニ ネ
e=arpa kuni ne

お前が行くような

シラン ペ ネ アプ エネ
sir an pe ne a p ene

様子であったのだが、このように

エヤイケシテ ワ (イ) エイサム ペ
e=yaykeste wa e=isam pe

お前が家出していなくなったもの

ネ クス ネ オタサムン ニシパ
ne kusu ne otasam un nispa

だからそのオタサムの長者

ポホ ネ ヤッカ (エク) ヘムイムイェ ワ
poho ne yakka hemuymuye wa

の子も腹を立ててふて寝して

アン ルウエ ネ コロカ
an ruwe ne korka

いたのであるけれども

ア (イウエンタラプ) ウエンタラプテ
a=wentarapte

私が夢見をさせた

ネ⁽²²⁾ クス エフナラ クス
ne kusu e=hunara kusu

のでお前を探すために

ニサッタネ アラキ パ (エ)
nisattane arki pa

明日になったら来る [だろう]。

エユピヒ カ ヘムイムイェ ワ アン ア
e=yupihi ka hemuymuye wa an a

お前の兄も腹を立ててふて寝していた

コロカ (ウエ) アウエンタラプテ ワ
korka a=wentarapte wa

けれども私が夢見させて

ニサッタネ エフナラ クス
nisattane e=hunara kusu

明日はお前を探すために

アラキ パ ナンコロ クス (ウ)
arki pa nankor kusu

来るだろうから

キムンカムイ ポホ アナクネ (エ)
kimunkamuy poho anakne

山の神の子は

エユピヒ レス レブンカムイ
e=yupihi resu repunkamuy

お前の兄が育てる。沖の神の

ポホ アナクネ エトゥラ ワ (ア)
poho anakne e=tura wa

子はお前が連れて

オタサムン ニシパ トウラノ
otasam un nispa turano

オタサムの長者と一緒に

エウタンネ⁽²³⁾ ワ エアン ヤクネ (ワ)
e=ewtanne wa e=an yakne

同族になっていれば

ワ ネ ヤクン ネプ エエシリキラプ カ ソモ キ ノ
wa ne yakun nep e=esirkirap ka somo ki no

そうしたならば何も心配もなく

テワノ エアン クス ネ ナ セコロ
tewano e=an kusu ne na sekoro

今からお前はいるのだぞ。」と

ネ オッカイポ ハウェアン ワ
ne okkaypo haweian wa

その青年が言って

エアラキンネ アコヤイライケ
earkinne a=koyayrayke

本当に私が感謝した。

カムイ オッカイポ イパロスケ コロ
kamuy okkaypo i=parosuke kor

神の青年が私を養って

(22) 査読者Bからこのneの説明を求められているが不詳。

(23) 査読者ABの教示によりe=utanneからe=ewtanneに修正した。

アン アアン ヒ アン セコロ
 an aan hi an sekoro
 いたのであったのだと
 ヤイヌアン ワ アコヤイライケ コロ
 yaynu=an wa a=koyayrayke kor
 私は思っで感謝すると
 アクス オラ ソイエネ ヒ クス
 akusu ora soyene hi kusu
 するとそれから外に出たので
 オシ インカラアナクス
 os inkar=an akusu
 その後を私が見ると
 キムンカムイ ネ ヒネ
 kimunkamuy ne hine
 山の神になって⁽²⁴⁾
 ピリカ カムイ ネ ヒネ
 pirka kamuy ne hine
 美しい神になって
 アプンノ エキムネ アラパ シリ
 apunno ekimne arpa siri
 無事に山へ行く様子を
 オシ アヌカラ ワ ヌベ トウラノ (ワ、ア)
 os a=nukar wa nupe turano
 後を見て、涙とともに
 アコヤイライケ ネ ヤ
 a=koyayrayke ne ya
 私は感謝するとか
 ラムオツ ネ ヤ アキ ルウェ ネ ヒネ
 ramuot ne ya a=ki ruwe ne hine
 隣れんだりして
 オラノ オカアン アコロ ソン ウタラ
 orano oka=an a=kor son utar
 いた。私の子供たちは
 イネ アプ タ ニサシヌ パ ワ (ア、ワ、ウ)
 ine a p ta nisasnu pa wa
 なんとまあ、丈夫になって
 タネ ウトゥラ シノツ カ キ パ ワ
 tane utura sinot ka ki pa wa
 今は一緒に遊びもして
 アエヤイコプンテック ワ ソイ タ
 a=eyaykopuntek wa soy ta
 私は喜んで外で、

(ソイ) エソイネ アコロ ソン ウタラ
 esoyne a=kor son utar
 外で私の子供たちが
 ソイエネ コロ オシ ソイエネアン ワ
 soyene kor os soyene=an wa
 外に出ると後から私も外に出て
 シノツ パ シリ アヌカラ ワ
 sinot pa siri a=nukar wa
 遊ぶ様子を私は見て
 ミナアン カネ アエヤイコプンテック コロ
 mina=an kane a=eyaykopuntek kor
 笑いながら喜んで
 アナン ルウェ ネ アクス (ペ、ペデ)
 an=an ruwe ne akusu
 いると
 (プ、ク) ホサリアン (ル…、カ)
 hosari=an
 私は振り返った。
 ネン カ (ア) アイヌ ヘ
 nen ka aynu he
 誰か人間か、
 ネン カ エク コロ アン シリ
 nen ka ek kor an siri
 誰かが来ている様子
 ネ ベコロ アヌカラ コロ
 ne pekor a=nukar kor
 のようなのを私が見ながら
 アナン ルウェ ネ アクス…、ヒネ オラ
 an=an ruwe ne akusu…, hine ora
 いるとすぐに
 スイ アコエラメウニン ワ
 suy a=koeramewnin wa
 また、うっかりして見逃して
 スイ インカラン コロ (オ)
 suy inkar=an kor
 また私が見ると
 アイヌ エク シリ エカリ
 aynu ek siri ekari
 人間が来る様子をちょうど
 アヌカラ コロ アナナイネ
 a=nukar kor an=an ayne
 私が見ていると、

(24) 人の姿の神が外に出て行くと、クマの姿に変身したものと考えられる。通常のウエベケレでは、神が人の姿で現われるのは夢見の中であり、このシーンは例外的といえる。

イカランケ⁽²⁵⁾ アルキ ワ インカラン アクス
 i=karanke arki wa inkar=an akusu
 私の近くに来て見ると
 トゥ オツカイポ アラキ パ
 tu okkaypo arki pa
 二人の青年が来て
 ネ シネ クル アナクネ
 ne sine kur anakne
 その一人は
 アユピヒ ネ ヒ アエラムアン ヒネ
 a=yupihhi ne hi a=eramuan hine
 私の兄であることがわかって
 アラキ パ…、ルウェ ネ アクス
 arki pa…, ruwe ne akusu
 来たことなので
 ネ アコロ ソン ウタラ
 ne a=kor son utar
 私の子供たちが
 ネン カ アムキリ ペコロ
 nen ka amkir pekor
 誰なのか知っているように
 ネ トゥ オツカイポ アラキ パ
 ne tu okkaypo arki pa p
 その二人の青年が来た者
 エカリ ホユツパ パ ヒネ
 ekari hoyuppa pa hine
 に向かって走って
 パイエ パ ルウェ ネ アクス
 paye pa ruwe ne akusu
 行くと
 その キムンカムイ ポホ アナクネ
 SONO kimunkamuy poho anakne
 その山の神の子は
 アユピヒ (イ) トモ ウンノ⁽²⁶⁾ エシカリ
 a=yupihhi tomo unno esikari
 私の兄の方にまっすぐに向かって掴んだ。
 レブンカムイ ポホ アナクネ
 repunkamuy poho anakne
 沖の神の子は
 ネ オタサムン ニシパ トモ ウンノ…
 ne otasam un nispa tomo unno…
 そのオタサムの長者の方に…

ウサ ウサ アコロ ソン ウタラ (ア)
 usa usa a=kor son utar
 それぞれの私の子供たちを
 アンパ カネ ヒネ エク ヒネ
 anpa kane hine ek hine
 抱いて来て
 イサム タ アラキ⁽²⁷⁾ ヒネ オラノ
 i=sam ta arki hine orano
 私のそばに来てから
 アユピ エアラキンネ イコヤヤパ⁽²⁸⁾
 a=yupi earkinne i=koyayapapu
 私の兄がとても私に謝った
 アマタキ エネ アコイキ アイネ オラ
 a=mataki ene a=koyki ayne ora
 「私の妹をあのようにいじめた結果
 ヤイケシテ ワ イサム オラノ
 yaykeste wa isam orano
 彼女が家出していなくなってから
 アエヤヨカパシテ⁽²⁹⁾ ワ アナン (ア) アワ
 a=eyayokapaste wa an=an awa
 私は後悔していたが
 カムイ イウエンタラプテ
 kamuy i=wentarapte
 神が私に夢見させて
 クスケライポ アプンノ
 kusukeraypo apunno
 くれたおかげで無事に
 エアン ヒ アエラムアナ
 e=an hi a=eramuan a
 お前がいることをわかった。
 アエフナラ クス エカン ルウェ ネ
 a=e=hunara kusu ek=an ruwe ne
 私はお前を探すために来たのだ。」
 セコロ ハウエアン ルウェ ネ ヒネ
 sekor hawean ruwe ne hine
 と言って
 オラ ネ オタサムン ニシパ (ア) カ
 ora ne otasam un nispa ka
 それからオタサムの長者も
 アコロ ソン テケ アニ カネ
 a=kor son teke ani kane
 私の子供の手を持って

(25) 査読者ABによる教示で聞き誤りを修正した。

(26) 田村すず子 (1996) p720に「tomo unno トモ ウンノ まっすぐそこに向かって」と記述あり。

(27) 聞き取りにくい箇所であるが、文脈から見てもアラキarkiと言おうとしたと推測して記した。

(28) 実際には「イコー…、ヤヤパプ」と聞こえる。

(29) 久保寺 (1992) に「yai-okapaste V 後悔する」と記述あり。

(ウ) イネアプ タ⁽³⁰⁾ (ア) アユピヒ ネ ヤッカ
ineap ta a=yupihhi ne yakka
なんとまあ、私の兄も
アコロ ソン ウタラ オマプ ロク オマプ ロク ヒネ
a=kor son utar omap rok omap rok hine
私の子供たちをととても可愛がって
オラ ナニ アコロ ワ オカイペ
ora nani a=kor wa okaype
すぐに私が持っていたものを
ヘム オカイペ アナクネ アオスラ ヒネ オラ
hem okaype anakne a=osura hine ora
何かの持ち物は私が捨ててから
アユプタリ アトゥラ ヒネ
a=yuputari a=tura hine
私の兄たちと一緒に
ネ ホシッパアン ヒネ アウニ タ
ne hosippa=an hine a=uni ta
私は帰って、私の家に
エクアン ルウェ ネ ヒネ オラ
ek=an ruwe ne hine ora
来てから
タブネ カネ ウェンタラプアン ア…
tapne kane wentarap=an a…
かくかくしかじかと私は夢見した…
カムイ オツカイポ エク ワ
kamuy okkaypo ek wa
神の青年が来て
イパロ オスケ カ キ ルウェ ネ クス
i=paro osuke ka ki ruwe ne kusu
私を養っていたので
その キムンカムイ ポホ アナクネ (エ)
SONO kimunkamuy poho anakne
その山の神の子は
アユピヒ レス オラ
a=yupihhi resu ora
私の兄が育てて
レブンカムイ ポホ アナクネ
remunkamuy poho anakne
沖の神の子は
アトゥラ ワ オタサムン ニシパ
a=tura wa otasam un nispa
私が連れて、オタサム of 長者と

アトゥラ クス ネ ヒ (イエ…)
a=tura kusu ne hi
一緒に来たのでその事を
アイイエ カ キ ウェンタラプ オッタ
a=i=ye ka ki wentarap or ta
私は言われた。夢で
カ キ パプ ネ クス
ka ki pa p ne kusu
も見たので
エウコヤイコプンテク パ コロ オラ
ewkoyaykopuntek pa kor ora
それで一緒に喜んでから
ナニ (イ) アユピヒ トウラノ
nani a=yupihhi turano
すぐに私の兄と一緒に
トゥッコ レレコ オカアン ア (ア) ラポッケ
tutko rerko oka=an a rapokke
二、三日いたところ
オラ エアシリ ピリカ ポ カ メノコ カ
ora easir pirka po ka menoko ka
それからはじめて良い子も女も
アユピ エヤイコンルスイ⁽³¹⁾ カ
a=yupi eyaykonrusuy ka
私の兄が〔家族を〕欲しが
キ シリ カ アヌカラ カ (カ)
ki siri ka a=nukar ka
様子も私が見も
キ コロ オラ オタサムン ニシパ
ki kor ora otasam un nispa
してから、オタサム of 長者と
アトゥラ ヒネ アラキアン ヒネ
a=tura hine arki=an hine
私は来て
オタサム タ オカアン ワ
otasam ta oka=an wa
オタサムで私は暮らして
イネアプ タ アコロ ソン ウタラ
ineap ta a=kor son utar
なんとまあ、私の子供たちが
ルプネ パ トウナシ シリ⁽³²⁾ カ
rupne pa tunas sir ka
大きくなるのが早い様子にも

(30) 査読者ABの教示で修正した。

(31) 査読者Aから「eyaykonrusuy は、白老の例では沙流地方以外の伝承者が使っておられます。「(タシロなど)を自分で欲しが」と訳せる一方で kosmat eyaykonrusuy のように「嫁を欲しが」と訳せる例が2件あります。」という教示を受けた。

(32) 査読者ABの教示で修正した。

アオクンヌレ コロ オカアン ラポッケ

a=okunnure kor oka=an rapokke

私は驚きながらいたところ

ネプ アエシリキラプ カ

nep a=esirkirap ka

何も私は心配も

ソモ キ ノ オカアン アイネ オラ (ア)

somo ki no oka=an ayne ora

なく暮らしていたあげく

ウコシネウエアン アユプタリ ネ ヤッカ

ukosinewe=an a=yuputari ne yakka

互いに行き来して兄たちであっても

アコロ ソン ウタラ ネ ヤッカ

a=kor son utar ne yakka

私の子供たちであっても

ルプネ パプ ネ クス

rupne pa p ne kusu

大きくなったので

ウコシネウパ カ キ パ ワ

ukosinewpa ka ki pa wa

互いに行き来もして

ネプ アエシリキラプ カ

nep a=esirkirap ka

何も私は心配も

アコロ ルスイ カ ソモ キ ノ

a=kor rusuy ka somo ki no

欲しいものもなく

オカアン アイネ ラポッケ

oka=an ayne rapokke

暮らしていたところ

アユピ サケカラ コロ

a=yupi sakekar kor

私の兄が酒を造ると

キムンカムイ (イ) ノミ クニ

kimunkamuy nomi kuni

山の神へ祈ることになっている。

ウエンタラプ (タ) テ…、ネ クス (ウ)

wentarapte…, ne kusu

夢を見させた、…ために

カムイ オロ ワ チカシヌカラ⁽³³⁾ ワ…

kamuy or wa cikasnukar wa…

神様から見守られて

ポイソン コロ ワ ポ ヘネ ネ ヤ

poyson kor wa po hene ne ya

赤ちゃんを持って、なおさら

ネプ エシリキラプ ソモ キ

nep esirkirap somo ki

何も私は心配もしない

エタカスレ (イ) カムイ ネ ヤッカ

etakasure kamuy ne yakka

抜きん出て良い神であっても

ネプ ネ ヤッカ ピリカ カムイ

nep ne yakka pirka kamuy

なんであっても良い神が、

ピリカ (ユプ) ワ アユプタリ、

pirka wa a=yuputari

良くて、私の兄たちが、

アユピヒ カ エヤイコブンテク ヤイカタ カ (ア、ガ)

a=yupihi ka eyaykopuntek yaykata ka

私の兄もそれを喜び、私も

レプンカムイ (ア…) アノミ コロ

repunkamuy a=nomi kor

沖の神に祈りながら

オカアン ペ ネ クス

oka=an pe ne kusu

暮らしていたので

ネプ カ アエシリキラプ カ

nep ka a=esirkirap ka

何も私は心配も

ウタシパ ソモ キ ノ オカアン アイネ

utaspa somo ki no oka=an ayne

お互いに無く暮らして

(エ、アユ) アポ ウタリ カ (ワ) ルプネ パ ワ

a=po utari ka rupne pa wa

私の子供たちも大きくなって

ヤイラメコテ パ シリ カ

yayramekote pa siri ka

結婚するのも

アヌカラ カ キ ワ オンネアン ペ ネ アクス

a=nukar ka ki wa onne=an pe ne akusu

見届けて死んでいくので

アイェ セコロ シネ メノコ

a=ye sekor sine menoko

言ったと一人の女が

イソイタク セコンネ パクノ

isoytak sekor ne. pakno.

話したのです。これまで。

(33) 査読者Bから、「ci=kasnukar」としていたのを語頭は自動詞を形成する接頭辞ciであると指摘を受けて修正した。

3 日本語テキスト

(上田トシさんの語り)

兄貴と、これと、妹で暮らしていました。そしたらもう兄貴がすごい大事にして、それで、うん、薪取りもしない、たった兄貴の食べることだけ支度して、食べらして、仲よく暮らしていたのに、どうしたけ、もう、いい娘になって、こんどもう、兄貴がすごい自分さ、あ、こう喋るのでも、きつい言葉で自分さ、喋るし、い、こーう、見る、言うことなすことに自分さ好きでないことばっかし言って、自分は何も別に悪さもしないのに、どうして兄貴がこうやって、あれするのかと思って、自分でお腹大きくなったのも気付かないで、ひょっと自分の姿見たら、自分のお腹大きくなってたので、それで兄貴が自分さ怒っていたちゅうことわかってから、もう、いつまで一緒にいても大変だと思ったから、どっかさ行って、子供できる近くになったから、もう、家出してと思って、使う道具でも、なんでも、もの集めたり、食べるものでも、集めたりしてから、ある日に兄貴がいないあとに、出てから、川を登って行って行って、川のカッチ(水源地)行ってから、また下さ降りる、小川(こがわ)さ、だか降りて、したけ、いい沢あるし、でももう、川原のもうきれいな川原だから、ここで住んでいたら、小魚獲りしても生活できるなと思って、そこで小小屋(こごや)こしらえて、そこにいて、昼は小魚獲って、かたっぴし焼いたり、食べたりしながらいるうちに子供できたけ、男の子ばっかし二人できて、双子できて、もう喜んで喜んで、その子供大事にしてるうちに、どっからか若い男が、あ、夕方なれば来て、煮炊きして、自分さちゃんと食べらしてくれる。そして子供らはすごい可愛がってくれて、で、毎日そうやってるうちに、あるもん、何日も経っているうちに自分も、お産の後も自分で煮炊きもできるようになったけ、その一若い男がまた来て、泊まって朝になって、なったら、帰る時に言うのには、「自分は人間でない、山の神さん、なんであったのに、あんまり、その娘の精神もいいし、器量もいいから、これ、神さんの娘であつたら結婚するものと自分も、気持ちだけど、アイヌ aynu(人間)の娘だから結婚できないなっていうこと、自分考えているのと一緒にその、お一、レブンカムイ repunkamuy(沖の神)ちったら、なに神さん、だか、そのレブンカムイ repunkamuyの息子もその娘に、惚れ惚れして結婚したいっていう気持ち持って、いたの、一緒になったもの、気持ち一緒になったもんだから、それで、あの双子できたんで、一人は山の神さんの子で、一人はその海の獣(けだもん)の子供だから、もう自分は、怒られて家に帰れば、男が女のお産扱いするもんでないのに、男が女

のお産扱いする、してるって言って家に帰れば、親に怒られたりなんかするから、もう明日からは自分来ないから、あの夢に兄貴さでも、その、出るうちにオタサムン otasam un 言うところの息子とお前が結婚するようになって、いたのに、そうやって家出してしまったんで、もう…、あれ、なんちゅううんだべ?

困っているから、あの夢に見して、あ、から、探しに来るべから、探しに来たら、その海の獣の子はオタサムン otasam un ちゅう(という)コタン kotan(村)の、お一、ニシパ nispá(長者)と結婚すれば、どこで子供と、そのあんたは結婚するし、い一、山の神さんの子供は兄貴のところにいて、え、いけば、もう、なんも、年いく方(ほう)に、苦労もなんもないで、子供ら共に育つから」っていうこと、その若い男が言って、え一、出たから後さ覗いたけ、どうしても、思い悪い、ありがたい、神さんの若い者が来て自分に、煮炊きして食べらしてくれたのかなと思って、思い悪いながらあと見たけ、きれいなクマで山さゆっくり登って行ったの見て、自分あとさ涙落としながら、思い悪いながらいたけど、子供らがすごい達者な、いい子供ばっかしで、で、外さ出て、遊んでるから、自分も外さ出て、子供の遊んだの見ながらいたけ、え、誰か、川なり登って行ったの見え、ような気して、見て見て、いるうちに、近づいて見たけ、一人は自分の兄貴だし、一人は知らない人だけけど、来て、近づいて来たけ、自分の子供ら、いきなり、その兄貴らのとこさ走って行って、兄貴らさ、すがりついたら、その、兄貴らも子供、てんでんに抱いて喜んで、自分のそばさ来てから、兄貴言うには「自分悪かった。」って、そんなわる…、「いい子供できることも知らないで、お腹大きくなった。って怒って怒って、こんど家出してしまった後に自分ももう、どうしたらいいか、わかんないくらい思い悪いながらいたけ、夢見してもらって、おかげで自分来たんだから」って謝ってくれてるから、一緒になってその子供、てんでんに負ぶってくれて、こんど自分でもあるもの拾って一緒に、帰って行って、自分の元の兄貴の家さ行って、何日もいるうちに、子供らはもう、達者、可愛がってもらう兄貴はその山の神の子供を可愛がる、う一、オタサム otasam いうところの若い者は、その海の獣(けもの)、けだものちゅうのか動物ちゅうのかの子供可愛がって、いるの見てるうちにこんどは一緒に、もう、そのオタサム otasam さ、子供と、ついて、オタサム otasam さ行って結婚して、自分も幸せになる、兄貴も山の神の子供を育てて幸せになってるから、酒つくっては、酒やら御幣やらで神さんさ、あ、お礼したりする、自分らもそのとおり、海の動物さ酒やら何やら御幣やらで、お祈りしたりするせいか、とってもし幸せにお互いに暮らしたけど、若い時、苦労したけど、年いって

から、子供らのおかげで幸せになったもんだから、あ、お話ししましたっていう、お話。それこそ、物語です。

中川裕 1995. アイヌ語千歳方言辞典. 草風館.

参考文献

- 一般財団法人アイヌ民族博物館 2015. アイヌ民族博物館 民話ライブラリ3 上田トシの民話3. 一般財団法人アイヌ民族博物館.
- 奥田統己編 1999. アイヌ語静内方言文脈つき語彙集(CD-ROMつき). 札幌学院大学人文学部.
- 萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典. 三省堂.
- 久保寺逸彦 1994. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書(久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海道文化財保護協会・北海道教育庁生涯学習部編.
- 社団法人北海道ウタリ協会 1994. アコロイタク AKOR ITAK. 社団法人北海道ウタリ協会.
- ジョン・バチラー 1981. アイヌ・英・和辞典 第四版. 岩波書店.
- 田村すず子 1991. アイヌ語音声資料(1~6)語彙 上巻. 早稲田大学語学教育研究所.
- 田村すず子 1992. アイヌ語音声資料(1~6)語彙 中巻. 早稲田大学語学教育研究所.
- 田村すず子 1993. アイヌ語音声資料(1~6)語彙 下巻. 早稲田大学語学教育研究所.
- 田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.

Ainu Oral Literature “Uwepeker”:

A Story of the Lady Who Gave Birth to the Children of the God of Mountain and God of the Sea

Yoh-ichi OHTANI

This text was composed in the written form by the author based on an audio tape of an Ainu story recited by Toshi UEDA (1912-2005), who was from Penakori, Biratori, Saru District, Hokkaido. According to Ms. UEDA, The story was passed on to her through her older sister, Kimi KIMURA (1900-1988). This story falls into the genre of *Uwepeker* in Ainu oral literature.

The protagonist of the story is a girl who lives alone with her older brother. The girl became pregnant merely because she was the object of admiration from both the god of mountain and god of the sea at the same time, and gave birth to a pair of

twin boys. One of the boys was the son of the god of mountain, while the other was the son of god of the sea. The son born to the god of the mountain was adopted by the woman's brother, while the other son born to the god of the sea was raised by the man to whom the woman was betrothed to in the village of *Otasam*. The protagonist and her siblings enshrined the fathers of her children, and in turn received blessings from both gods in living happily thereafter.

The story is a classic *Uwepeker* that concludes with a reciprocal relationship between Ainu and the *Kamuy*.